北陸

北陸企業 未来への挑戦

衣料から医療機器まで

福井経編興業

心臓用パッチ 共同開発

ニット生地製造の福井経編興業（福井市）が衣料で培った技術を応用し、医療機器を新たな柱に育てようとしている。製品化の第1弾となる心臓修復用のパッチを帝人、大阪医科大学（大阪府高槻市）と開発中だ。心臓に穴が開いている子供など心疾患の患者の手術に使う。2021年度に薬事申請する予定で、海外販売も視野に入れる。

再手術が不要に

「世界で通用する新しい心臓修復パッチを目指す」。高木義秀代表取締役専務は強調する。従来のパッチは伸縮しにくい素材などが使われる。子供の手術に使っても、体の成長に伴い再手術するなどの課題があった。

新しいパッチは体内で溶ける糸と溶けない糸で編み上げる。成長に伴い、患者自身の組織に徐々に置き換わり、再手術が要らなくなる。高木専務は「パッチの国内市場は年7億円程度。発売1年目で1億円の売り上げを目指し、徐々にシェアを高める」考えだ。

福井経編など3者は2014年度に経済産業省の「医工連携事業化推進事業」の採択を受け、開発に着手した。福井経編は編み、帝人はパッチに使う素材、大阪医大の心臓手術というそれぞれのノウハウを生かす。既に試作品が完成し、動物実験を始めている。

ISO認証取得

製造を担う福井経編の準備も進んでいる。ほこりが入らないクリーンルームがこのほど完成した。医療機器専用のスペースで、広さは約260平方㍍。約7500万円を投じ、既存の建物を改装した。

医療機器の品質管理の国際規格「ISO13485」を取得した。編み織りの国内繊維メーカーが取得するのは初めてという。「国内の医療機関にまず使ってもらうことになるが、その後、欧米にも販路を広げる」（高木専務）ための戦略だ。

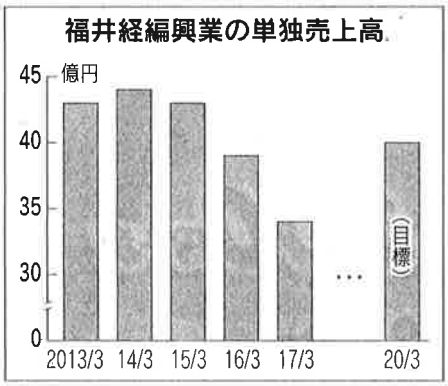
5年前、大阪医大の心臓外科医から新しいパッチの開発に向けた相談があった。当時、別の大学と開発を進めていたシルクの人工血管がテレビで取り上げられ、その技術が応用できないかという話だった。人工血管の研究は続けているが、パッチの製品化のほうが先行するという。

同社の主力は婦人衣料向けの生地だ。関連会社を含めて98台の編み機を持つ。国内の編み機は約1000台ともいわれ、編みの有力企業だ。15年3月期の単体売上高は43億円だったが、国内向けの受注が落ち込み、16年3月期以降は40億円を割り込む。

本業ではグローバル展開を進めV字回復を狙う。現在の輸出比率は中国や韓国を中心に33%程度。これを5年以内に40%にするのが目標だ。専門の営業チームを欧州の展示会に派遣するなど現地のアパレルを中心に販路を開拓する。

輸出を含めた営業強化を通じて、まず20年3月期に40億円に戻す。「医療機器の新分野を軌道に乗せ、将来にわたり、雇用も機械も守る」考えだ。

（福井支局長　石黒和宏）



関連会社を含めて98台もの編み機を持つ有力企業だ

☎
金沢支局 076-232-3311
富山支局 076-432-4463
福井支局 0776-22-3490